

硫黄岳&天狗岳山行報告

【山行日】2019年2月9(土)~10(日)

【集 合】岩舟支所P AM 5:30

【費 用】マイカー1台 : 19,000円

【メンバー】CL:鈴木、石川、岩淵、岡、香川、

【コースタイム】9日:岩舟支所P5:30=夏沢鉱泉

分岐P9:00/9:30=桜平 9:50~夏沢鉱泉

10:20/11:00~オーレン小屋 11:50~夏沢峠

12:10/12:30~オーレン小屋~夏沢鉱泉 13:30

10日:夏沢鉱泉 7:15~オーレン小屋 8:05/8:15

~箕冠山 9:10/9:20~根石岳山荘 9:30/9:45~根

石岳 10:00/10:20~オーレン小屋 11:00/11:10~

夏沢鉱泉 11:50/14:00~桜平 14:20/14:40=夏沢鉱泉分岐 15:00/15:00=岩舟支所P18:15

9日 曇り後雪 夏沢鉱泉から硫黄岳を目指したが、荒天の為夏沢峠で断念し往復する。

当初の計画は洪の湯から黒百合平経由で天狗岳を目指す予定だったが、夏沢鉱泉に泊りたいと言うリクエストがあり、夏沢鉱泉を基点に硫黄岳と天狗岳を登る計画に変更した。



つ。予定時間より10分早く出発し、桜平ゲートで車を降りる。荷物は車に載せたまま運んでもらえるので、我々は手ぶらで夏沢鉱泉まで歩いて行く。雪道が凍っていて歩きにくいですが、登りなのでアイゼン無しでも登れた。30分歩いて鉱泉に着くと、荷物はすでに宿の中に運ばれていた。受付を済ませ部屋に荷物を運び、出かける準備をしたら外に出て靴を履きアイゼンを付ける。宿の前で記念写真を撮り、鳴岩沢沿いの道をオーレン小屋に向かって登る。雪は大勢に人に踏み固められ、アイゼンが効いてとても歩き易かった。

水力発電棟を過ぎると沢を渡り、シラビソの樹林の中を歩くようになる。

夏沢鉱泉は夏沢峠の西方標高2060mに位置し、硫黄岳や天狗岳登山に便利な宿である。冬季は宿泊者に限り、桜平まで専用ワゴン車で送迎サービスを受けられる人気の山小屋である。岩舟支所を朝5時30分に出発し、圏央道から中央道を走り唐沢鉱泉分岐の駐車場に着く。すでに数台車が止まり、送迎用のワゴン車も到着していたが「道路の整備をするので待ってください」と言われ、出られる準備をして車の中で待



しばらく登ると右岸に渡り返し、九十九折れに登って傾斜が緩くなるとオーレン小屋が見えてくる。



オーレン小屋は立派な小屋だが冬季は休業中で、軒先を借りて休憩し水分を補給する。ここからすぐ先で天狗岳への道を左に分け、直進して夏沢峠に向かう。ここら辺から雪が降りだしてきて、夏沢峠に着いた頃は風も強くなってきた。夏沢峠の山彦荘の裏側に回り、風を避けて昼食をいただくがとても寒い。雪が増々強くなってきたので、硫黄岳の登頂は断念し夏沢鉱泉に戻ることにする。オーレン小屋まで戻ると、先程とは違い雪がかなり降っている。結構登って来る人が多く、「こんな状況でどこまで登るのかな？」と心配になる。雪が降っているが下りは楽で、真白な雪景色を楽しみながら夏沢鉱泉に戻った。鉱泉に着くとモンベルツアーグループが発券する所で、ガイドの方がアイゼン歩行のレクチャーを行っていた。我々は部屋に戻り、早速温泉に入ることにする。我々が一番乗りで木の蓋を空けて、備え付けの棒でお湯を攪拌する。丁度よい湯加減で、のんびりとお湯に浸かることが出来た。温泉に入ったらいつものお楽しみで、1階の食堂で宴会が始まる。最初は生ビールで乾杯し、日本酒やワインなど好きなものを楽しむ。

4時からは夕食準備があるので、部屋に戻って夕食の時間まで待つ。夕食は名物の猪鍋で、癖も無くとても美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の山行に向けて早めに床につく。



10日 晴れ 夏沢鉱泉から天狗岳を目指す、強風と低温の為根石岳で断念し下山する。

朝食は6時からと言われていたが、ヒロ君がフロントで確認したら2回目の6:15分からと言われる。いらぬ荷物をスタッフバックに入れ、廊下の椅子の上に纏めて置いて行く。準備を整えたら食堂に行き、朝食をいただく。朝食を食べたらトイレを済ませ、外に出て靴を履きアイゼンを付ける。空は晴れていて、谷間なので風もほとんど感じない。オーレン小屋までは昨日往復した道を登って行く。昨日通った道だが晴れているので明るく、樹林に付いた霧氷や雪が白く輝きとても美しい。シラビソの葉に昨夜降った雪が積もり、これもまた美しく今日の天狗岳登山に期待が高まる。今日はヒロ君に先頭を任せて登るが、I 溯さんが遅れ気味で前の3人と離れてしまう。体調は絶好調と言うのだが、ペースが上がらず何回か待ってもらう。オーレン小屋に着くと大勢の登山者が休んでおり、我々も休憩してこれからの登りに備える。小屋の少し先の分岐を左に進むが、先行者のトレースがしっかりあり歩き易い。



オーレン小屋に着くと大勢の登山者が休んでおり、我々も休憩してこれからの登りに備える。小屋の少し先の分岐を左に進むが、先行者のトレースがしっかりあり歩き易い。

相変わらずI 瀨さんのペースが上がらず、先行の3人の姿が見えなくなりその都度待ってもらう。



モンベルツアーのパーティを抜き、しばらく登ると箕冠山に着く。ここは樹林帯の中の平らな場所で、夏沢峠からの道との合流点である。ここまでは快晴で風も弱く寒さは感じなかったが、少し先で樹林帯から解放され視界が開ける。ここから根石岳や天狗岳など白銀の世界が広がり、今までと違う絶景に息をのむ。と同時に強風にさらされ、顔や手が凍えるように冷たくなる。鞍部まで下り左に根石小屋に向かい、小屋の前で風を避けバラクラバを被り防寒対策する。

ここから根石岳に向かうが、強風が吹きつけ顔や手が冷たい。メガネに息が凍り付き視界が悪く、登るのに難儀した。何とか頂上に登り記念写真を撮るが、寒さがハンパ無いので天狗岳への登頂は断念し下山することにする。東天狗岳と西天狗岳を目前にし、下山するのは残念だが断腸の思いで決断した。装備が甘かったと反省しながら戻り、箕冠山まで来ると風もおさまり、寒さも感じなくなる。オーレン小屋まで戻ると陽射しが暖かく、小屋の前で景色を見ながらのんびり休憩する。



アンパンやチョコを食べ、エネルギーを補給したら下山する。往路を戻り無事夏沢鉱泉まで戻り、朝置いて行った荷物をザックに詰め替えたら食堂でランチをいただく。カレーライスやラーメン、ハン



バーグランチ等、各自好きなものをオーダーいただいた。12時過ぎには昼食が済み、これから送迎の時間までが結構長かった。桜平ゲート発が14:30分なので、鉱泉を14時過ぎに出発するので2時間以上待たされる。マンガを読んだりコーヒーを飲んだりして時間をつぶし、14時にアイゼンを付けて夏沢鉱泉を出発した。凍った雪道もアイゼンを付ければ怖くなく、荷物も無いので20分足らずでゲートに着く。ここからワゴン車に乗り駐

場所まで行くが、年配のオジサンの運転が荒くとても怖かった。駐車で降ろしてもらい、靴を履き替えた後車に乗り帰路につく。ヒロ君がグーグルナビで調べると、白樺湖経由の道が早く帰れそうなので白樺湖に向かう。そこから佐久南IC へ向かい、上信越道から北関東道を通り予定より少し遅れたが、無事に岩舟支所に帰着した。